盛岡市遺跡の学び館

令和４年度　館報

国史跡 盛岡城跡 三ノ丸北西部石垣修復工事及び第 37 次調査

盛岡市遺跡の学び館

はじめに

盛岡市は、南部氏が居城盛岡城を構えて以来、その城下町として発展し、近代以降は岩手県の県都として文化と自然、都市機能の調和のとれた、東北を代表するまちになりました。

さらに歴史を紐解くと、縄文の時代から現在に至るまで数千年の時を経て、当時の人々の営みが幾重にも積み重なり、現在の私たちの暮らしに繋がっていることを、遺跡の調査等から感じ取ることが出来ます。

盛岡市遺跡の学び館は、先人記念館や子ども科学館などの文化施設が集約されている中央公園の一角に位置し、埋蔵文化財センターとしての機能と、博物館としての機能を併せ持つ盛岡市教育委員会所管の施設です。

令和４年度の発掘調査事業では、前年度に引き続き行われた史跡盛岡城跡の整備に伴う発掘調査のほか、公共工事や民間開発事業等に伴う発掘調査を行っており、調査成果は、今後、報告書として刊行する予定ですが、本書は、その速報として概要をまとめたものです。

学芸事業におきましては、企画展「盛岡の縄文文化－縄文人の石細工－」を開催し、縄文時代の石製品である石器や装飾品などの遺物から、縄文人の文化を検証しました。

テーマ展「盛岡市・都南村合併 30 周年記念事業「都南の遺跡」」では、合併 30 周年を迎え、都南地域に所在する縄文時代からの遺跡を通して、都南地域の歴史や文化について解説しました。

新型コロナウィルス感染症の影響により停滞気味であった市民活動も、徐々に平常に近づきつつあります。今後におきましても、市民の皆様のニーズをふまえながら、企画内容等のさらなる充実を図ってまいりますので、引き続き御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和６年３月

盛岡市遺跡の学び館
館　長　高橋　智巳

例　　言

1　本書は、盛岡市遺跡の学び館の令和４年度館報である。
2　本書の編集執筆は、当館職員が協議して行った。
3　Ⅲ－３の埋蔵文化財発掘調査の記載内容は、令和４年度に当館が行った発掘調査の概略をまとめたものである。その多くは現在資料整理中であり、正報告書は別途刊行予定である。
4　Ⅲ－４の「盛岡市日戸遺跡出土の大型磨製石斧」は、令和４年度に開催した第20回企画展に係る当該資料の調査報告である。共同研究者である飯塚 義之（台湾　中央研究院地球科學研究所）・小野章太郎（東北歴史博物館）両氏には謝意を表する次第である。
5　本書に使用した地図は、国土地理院発行２万５千分の１地形図「矢幅」「盛岡」「小岩井農場」「鷹高」「外山」「渋民」及び盛岡市都市計画整備図を使用した。
6　発掘調査に伴う記録類や出土遺物等は、当館で保管している。

目　　次

はじめに
例 言・目 次 ・・1
Ⅰ　施設概要
　1　（仮称）盛岡市文化財センター建設事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　2　事業経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　3　建設事業費等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　4　施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅱ　職員体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Ⅲ　事業概要
　1　管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　2　学芸事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　3　埋蔵文化財発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　4　盛岡市日戸遺跡出土の大型磨製石斧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
報告書抄録

Ⅰ　施設概要

1　（仮称）盛岡市文化財センター建設事業

平成 12 年 12 月 24 日未明の「文化財調査室」の火災事故以後、防災に強い施設整備に向けて、平成 13 年 5 月より (仮称) 盛岡市文化財センター建設構想に係る庁内外との協議 (企画調整課・財政課・管財課・契約検査課・公園緑地課・建築営繕課・地域整備公団 (当時)) を開始し、総合計画との関連および予算措置・建設用地等についての協議をおこなった。各関係機関との協議を経て、同年 7 月に文化庁から埋蔵文化財センター建設事業 (国庫補助) について、平成 14 年度の事業実施の方向性を打診。建設用地は市先人記念館・子ども科学館・県立美術館の立地する盛岡市中央公園地内を候補地とし、諸機関との調整の上、同年 8 月に事業開始となった。

2　事業経過

平成 13 年度	「（仮称）盛岡市文化財センター建築基本設計」策定、展示構想策定業務、地質調査
平成 14 年度	建築実施設計、展示施設計画、建築工事・土木工事
平成 15 年度	建築工事・土木工事　　展示施設製作業務委託、盛岡市遺跡の学び館設置条例制定
平成 16 年度	盛岡市遺跡の学び館施行規則制定　施設の名称を「盛岡市遺跡の学び館」とする
平成 16 年 6 月 1 日	盛岡市遺跡の学び館開館
令和 5 年 3 月末	開館以来の施設総利用者数 207,746 人

3　建設事業費等

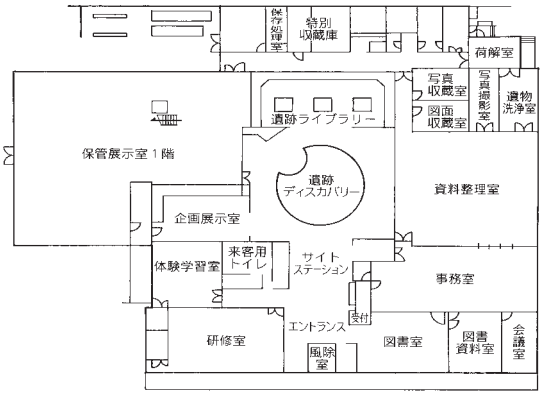
・建設事業費　677,755 千円（国庫補助 210,000 千円・県補助 105,000 千円）

総事業費	677,755　千円
建築設計委託	24,675
建築工事費	455,490
土木工事費	43,543
展示計画策定業務委託	8,820
展示施設製作業務委託	91,308
備品購入費	44,700
その他	9,219

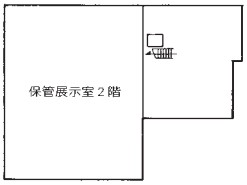
建築設計	株式会社三衡設計舎
展示施設構想策定・製作	株式会社丹青社
建築主体工事	株式会社阿部正工務店
敷地造成工事	有限会社東北農林建設
電気設備工事	新興電機株式会社
給排水設備工事	有限会社門坂工業
機械設備工事	中央水道土木株式会社
地質調査業務委託	旭ボーリング株式会社
敷地植栽工事	株式会社やまいわ
簡易リフト設置工事	三機商事株式会社

4　施設概要

施設の名称と位置		名称　盛岡市遺跡の学び館			設　置	平成 16 年 3 月 31 日
		住所　岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地 1			開　館	平成 16 年 6 月 1 日
施設の概要		構　　造	鉄筋コンクリート、一部鉄骨造平屋 (一部重層)			
		敷地面積	5,788.8㎡	建築面積	2,639.9㎡	延床面積　2,748.72㎡
室名と面積	展示部門	常設展示室 (450.8㎡)、企画展示室 (81.4㎡)、展示器材室				
	教育普及部門	研修室 (117.0㎡)、図書資料室 (47.7㎡)、図書室 (66.3㎡)、体験学習室 (70.9㎡)、研修機材室、学習器材室等				
	収蔵部門	保管展示室 (897.3㎡・1 階 517.8㎡・2 階 379.5㎡)、特別収蔵室 (46.5㎡) 写真収蔵室 (27.2㎡)、図面収蔵室 (27.2㎡)				
	調査整理部門	資料整理室 (237.2㎡)、遺物洗浄室 (37.1㎡)、写真撮影室（28.8㎡）、保存処理室 (14.7㎡)				
	管理部門	会議室 (30.8㎡)、事務室 (157.7㎡)、荷解室 (24.5㎡)、休憩室 (12.7㎡)				



１階　平面図



２階　平面図

館内平面図及び外観・展示室写真

【収蔵資料】（令和４年度末現在）

資料区分		細区分	内　　容	点　　数
考古資料	R4 年度発掘調査分		・史跡盛岡城跡・手代森遺跡・見前中島遺跡　ほか	小コンテナ 40 箱
	従前調査資料	完形品等（展示資料含む）	・土器・土製品・石器・石製品・陶磁器・鏡・古銭・金属器・木製品 ・瓦・装身具・小判・経石等	約 5,400 点
		破片等コンテナ収納資料	・プラスチックコンテナ収納（土器・石器破片、自然遺物含む） ※大コンテナ 503 × 700 × 397㎜、小コンテナ 387 × 586 × 142㎜	大　368 箱 小 16,224 箱
	寄贈寄託	個人コレクション	・武田良夫氏・古澤典夫氏ほか寄贈考古資料 ・一本松経塚・安倍館遺跡出土遺物ほか	8,521 点 2 点
標本等		模型・レプリカ	・模型・レプリカ・土壌サンプル等	—
調査記録資料		図面	・図面（原図・第２原図・遺物実測図等）	約 4,400 枚
		写真	・写真（モノクロ・カラーネガ :35㎜、6 × 7、4 × 5） ・カラースライド (35㎜、6 × 7) ・デジタル画像 (700MB:CD・DVD)	約 130,000 コマ 約 44,000 コマ 約 440 枚

Ⅱ　職員体制

館　　長（兼）　割船　活彦

館長補佐（兼）　大森　勉

〔管理・学芸 担当〕

（主任１　会計年度任用職員４）

主任（兼）	杉浦　雄治
文化財調査員（会計）	伊藤　聡子
学芸調査員（会計）	千葉　貴子
学芸調査員（会計）	樋下　理沙
事務補助（会計）	立花　真奈

〔調査 担当〕

（文化財副主幹２　主査３　主事３　会計年度任用職員３）

文化財副主幹（兼）	菊地　幸裕
文化財副主幹（兼）	津嶋　知弘
文化財主査（兼）	神原　雄一郎
文化財主査（兼）	今野　公顕
文化財主査（兼）	花井　正香
文化財主事（兼）	鈴木　俊輝
文化財主事（兼）	今松　佑太
文化財主事（兼）	杉山　一樹
文化財調査員（会計）	佐々木　あゆみ
文化財調査員（会計）	浜谷　佑
文化財調査員（会計）	室野　秀文

Ⅲ　事業概要

1　管理運営

【盛岡市遺跡ネットワーク整備委員会】

盛岡市における中核史跡や重要遺跡の保存活用と遺跡整備の基本的方向を定めることを目的として平成 12 年に設置。遺跡の学び館の開館を機に、当館の企画運営についての指導もいただいている。

〈日　時〉令和 4 年 5 月 20 日（金）　　13 時 30 分～ 14 時 30 分

〈会　場〉当館　研修室

〈出席者〉熊谷 常正 委員長、落合 明彦・田代　航・金野 万里・佐藤 由紀男・瀬川 君雄　委員

〈議　事〉報告・令和 3 年度遺跡の学び館事業報告について

岩手県立博物館における文化財への不適切行為事案に係る調査結果について

審議・令和 4 年度遺跡の学び館事業計画（案）について

【年間事業費】（令和 4 年度決算額）

事 業 名	事業費（決算額）	事業内容
管理運営事業	16,299,417 円	・施設設備の維持管理経費等
学芸事業	4,354,445 円 （うち国補助 1,557,000 円）	・テーマ展、企画展、調査資料展、体験学習会、普及資料の作成、収蔵資料データシステム等
盛岡遺跡群発掘調査事業	4,848,711 円 (うち国補助 2,358,000 円、 県補助 318,000 円)	・個人住宅建築に係る事前の発掘調査及び資料整理
埋蔵文化財調査事業	1,496,242 円	・公共事業に伴う発掘調査、各種開発に係る試掘確認調査
埋蔵文化財発掘調査受託事業	8,703,089 円	・民間事業者開発に伴う発掘調査
計	35,701,904 円	

【入館者統計】開館以降の入館者等利用状況（平成 16 年 6 月～令和 5 年 3 月）

（単位：人）

	有料入館者							減免利用者			展示室利用者数	展示室以外の利用者数	総計
	個人			団体			計						
	一般	小・中	小計	一般	小・中	小計		一般	小・中	計			
H16	2,837	923	3,760	792	422	1,214	4,974	5,316	610	5,926	10,900	1,896	12,796
H17	2,298	1,475	3,773	582	372	954	4,727	2,064	597	2,661	7,388	2,800	10,188
H18	2,024	1,557	3,581	259	798	1,057	4,638	1,575	1,098	2,673	7,311	5,244	12,555
H19	1,932	1,710	3,642	413	851	1,264	4,906	1,660	1,102	2,762	7,668	5,290	12,958
H20	2,157	2,218	4,375	473	804	1,277	5,652	1,859	982	2,841	8,493	6,263	14,756
H21	2,144	2,158	4,302	375	525	900	5,202	1,284	568	1,852	7,054	5,450	12,504
H22	2,012	1,594	3,606	228	268	496	4,102	1,114	411	1,525	5,627	3,624	9,251
H23	1,753	1,644	3,397	709	1,874	2,583	5,980	1,007	690	1,697	7,677	5,156	12,833
H24	2,347	1,471	3,818	427	1,218	1,645	5,463	2,031	610	2,641	8,104	4,959	13,063
H25	1,942	1,640	3,582	630	340	970	4,552	1,641	521	2,162	6,714	3,877	10,591
H26	2,109	1,513	3,622	328	273	601	4,223	1,691	972	2,663	6,886	4,537	11,423
H27	2,305	1,294	3,599	409	224	633	4,232	1,645	545	2,190	6,422	3,641	10,063
H28	2,204	1,129	3,333	527	198	725	4,058	1,755	394	2,149	6,207	4,184	10,391
H29	2,187	863	3,050	633	322	955	4,005	1,842	682	2,524	6,529	5,103	11,632
H30	2,151	831	2,982	786	214	1,000	3,982	1,463	670	2,133	6,115	4,869	10,984
R1	2,822	1,069	3,891	740	351	1,091	4,982	1,949	953	2,902	7,884	4,258	12,142
R2	1,240	619	1,859	352	987	1,339	3,198	1,080	680	1,760	4,958	1,336	6,294
R3	1,289	454	1,743	295	625	920	2,663	951	506	1,457	4,120	1,466	5,586
R4	1,955	749	2,704	480	919	1,399	4,103	1,258	295	1,553	5,656	2,080	7,736
計	39,708	24,911	64,619	9,438	11,585	21,023	85,642	33,185	12,886	46,071	131,713	76,033	207,746

2　学芸事業

当館主催の学芸事業として、企画展示室において企画展、テーマ展、令和４年度調査資料展を開催したほか、市民参加による体験学習会を年間を通じて全６回開催し、また、ゴールデンウィーク、夏休み・冬休み期間中には個人を対象とした体験学習会などを開催した。また、発掘調査現地での説明会の実施、普及資料の発行、出前講座等の事業を実施した。

なお、令和４年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、体験学習会、古代体験ひろば、特別講演会及び学芸講座については、内容の一部及び定員を変更して実施した。

(1) 展示公開・普及活動

【展示会】

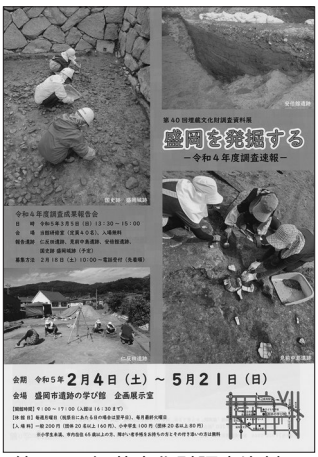
タイトル等	テーマ展 盛岡市・都南村合併 30 周年記念事業「都南の遺跡」	会　　場	当館企画展示室
		来 場 者 数	2,335 名
開 催 期 間	令和４年６月４日（土）～令和４年９月 19 日（月）	展示資料数	167 点
展 示 構 成	〔都南地域の歴史〕都南地域の原始から近世までの歴史〔縄文時代の遺跡〕湯壺遺跡、手代森遺跡など 〔奈良・平安時代の遺跡〕西鹿渡遺跡、高檜Ａ遺跡、乙部方八丁遺跡など 〔中世・近世の遺跡〕湯壺経塚、長善寺経塚、都南地域の中世城館（パネル展示）		
概　　要	平成４年に盛岡市と都南村が合併して令和４年で 30 周年となる。これを記念し、都南地域に所在する縄文時代から近世までの遺跡を通して、都南地域の歴史や文化を紹介した。 なお、都南歴史民俗資料館と共催で実施し、共同企画スタンプラリーを実施した。		
作 成 資 料	ポスター・チラシ・展示資料一覧・ポストカード（スタンプラリー記念品）		

タイトル等	第 20 回企画展「盛岡の縄文文化－縄文人の石細工－」	会　　場	当館企画展示室
		来 場 者 数	1,401 名
開 催 期 間	令和４年 10 月１日 (土) ～令和５年１月 22 日 (日)	展示資料数	705 点
展 示 構 成	〔縄文時代以前の盛岡〕旧石器時代の遺跡と遺物 〔縄文時代の幕開け〕土器の登場 〔定住の始まり〕縄文文化の隆盛 〔精神文化の開花〕石製装飾品、玦状耳飾り 〔縄文文化の高揚〕活発な交流、盛岡のネフライト（軟玉）〔縄文文化の終焉〕縄文時代後・晩期の石製品、早池峰のネフライト		
概　　要	縄文時代の実用具としての石器以外に、装身具や祭祀用の石製品に焦点をあてた。盛岡市内から発見された縄文時代早期～晩期の石製品や関連する遺物を通して縄文人の優れた石材加工技術と、使用石材から見えてきた縄文文化の背景について展示解説した。		
作 成 資 料	展示図録・ポスター・チラシ・展示資料一覧		

タイトル等	第 40 回埋蔵文化財調査資料展 「盛岡を発掘する－令和４年度調査速報－」	会　　場	当館企画展示室
		来 場 者 数	1,424 名
開 催 期 間	令和５年２月４日 (土) ～令和５年５月 21 日 (日)	展示資料数	174 点
展 示 遺 跡	盛岡城跡、見前中島遺跡、仁反田遺跡、安倍館遺跡、下永林遺跡、落合遺跡		
概　　要	令和４年度に市内で発掘された遺跡の概要について、出土遺物・写真・解説パネル等で展示・公開。		
作 成 資 料	展示パンフレット・ポスター・チラシ・用語集・展示資料一覧		

テーマ展　都南の遺跡

企画展　盛岡の縄文文化



第 40 回埋蔵文化財調査資料展

【講演会】(企画展関連事業)

開 催 日	タイトル・講師	聴 講 者
令和4年11月6日(日) 13：00～16：00	特別講演会「狩猟採集社会における石の利用」 東北歴史博物館　副主任研究員　　小野　章太郎　氏 解説講演会「岩手（盛岡周辺）の石材産地踏査記」 当館　神原　雄一郎　文化財主査	40名

【学芸講座】

開 催 日	タイトル・講師	聴 講 者
令和4年9月18日(日) 13：30～15：00	学芸講座Ⅰ「都南の遺跡」 当館　鈴木　俊輝　文化財主事	26名
令和4年10月30日(日) 13：30～15：00	学芸講座Ⅱ「盛岡城跡発掘調査と石垣解体工事」 当館　今松　佑太　文化財主事	23名
令和4年11月27日(日) 13：30～15：00	学芸講座Ⅲ「環状列石の出現－その時、盛岡では－」 当館　杉山　一樹　文化財主事	38名

学芸講座Ⅰ「都南の遺跡」

特別講演会「狩猟採集社会における石の利用」

【ミニ展示】

サイトステーション内にミニ展示コーナー「みっけギャラリー」を設け、3～4ヶ月ごとにテーマを決めて展示した。令和4年度は、縄文時代の剥片石器、磨製石斧をテーマとした展示を行った。

(2) 参加型体験活動

【体験学習会】

開 催 日	タイトル・講師	参 加 者
令和4年6月19日（日） 9：30～12：00	「縄文土器をつくろう！」 対応：当館職員・サポーターズクラブ	8名
令和4年7月3日(日) 9：30～12：00	「草木染教室」 対応：当館職員・サポーターズクラブ	9名
令和4年7月30日(土) 10：00～11：30	「もりおか史跡・遺跡めぐり（盛岡城跡）」 対応：当館職員	20名
令和4年12月4日(日) 9：30～12：00	「つるを編んでみよう！」 対応：当館職員・サポーターズクラブ	8名

開 催 日	タイトル・講師	参 加 者
令和４年 12 月 18 日(日) 9：30～12：00	「考古学者になってみよう！（資料整理編）」 対応：当館職員・サポーターズクラブ	11 名
令和５年２月 18 日(土) ・２月 19 日(日) 9：30～12：00	「カゴ作り教室」（2 回） 対応：当館職員・サポーターズクラブ	19 名

もりおか史跡・遺跡めぐり

草木染教室

カゴ作り教室

【古代体験ひろば】

催事のタイトル	開催期間	体験学習のメニュー	参 加 者
ゴールデンウィーク！ 古代体験ひろば	令和４年４月 29 日(金) ～５月　５日(木) ７日間	午前の部　10：00～11：00 午後の部　13：30～14：30 メニュー：古代風ストラップ・古代風お守りネックレス・板状土偶マグネット・着色勾玉づくり（5 月５日、１月９日のみ実施）	99 名
夏休み！ 古代体験ひろば	令和４年７月 30 日(土) ～８月 11 日(木) 12 日間		126 名
冬休み！ 古代体験ひろば	令和５年１月４日(水) ～１月９日(月) ６日間		101 名

※新型コロナウィルス感染拡大防止のため、メニューの一部を変更したほか、ゴールデンウィーク古代体験広場は参加人数を各回先着５組に限定した。

ＧＷ！ 古代体験ひろば

夏休み！ 古代体験ひろば

冬休み！ 古代体験ひろば

【縄文ふれあい DAY】

盛岡市内の小・中学校に通学している児童・生徒５名以上の場合に入館料が減額になる毎月第２土曜日を「縄文ふれあい DAY」とし、古代風ストラップ・拓本とり・古代風お守りネックレス作りなどの体験学習を実施した。

(3) ボランティア活動や地域連携活動

【盛岡ゆいとぴあミュージアムネットワーク】

「盛岡ゆいとぴあミュージアムネットワーク」(略称もりとぴあねっと)は盛岡市中央公園・本宮・太田地区の博物館・美術館6施設(岩手県立美術館・原敬記念館・盛岡市子ども科学館・盛岡市先人記念館・盛岡市遺跡の学び館・志波城古代公園)で構成されたネットワークで、平成19年度に設立。施設間及び地元本宮地域協働協議会「ゆいネット盛南」等との連携により、共同テーマによるイベント・展示会の開催を行い、利用者が美術・歴史・科学・先人(人物)などに対し、多角的に興味関心を持つ機会を提供し、利用促進を図った。令和4年度は、合同情報紙「もりとぴあねっとだより」を作成・配布と、近隣大型ショッピングセンターとタイアップした利用促進イベントを実施した。

催事のタイトル	開催期間	内　容
杜の道　もりとぴあねっと×イオンモール盛岡南	令和2年12月19日（土）～ 通年	各施設の利用チケットの半券をイオンモール盛岡南に持参した方に飲食割引クーポンを発券する

【遺跡の学び館サポーターズクラブ】

当館の体験学習など行事運営を支援・協力するボランティア団体の「サポーターズクラブ」が発足して17年目を迎えた。令和4年度は、5名の新規会員が加入し、会員数22名での活動となった。当館行事の「古代体験ひろば」(個人の体験学習)や「カゴ作り教室」等の体験教室、修学旅行等の学校行事利用の体験学習等に、精力的に参加され、支援していただいた。

なお、自主活動として例年実施している研修旅行は、新型コロナウィルス感染防止のため中止し、当館バックヤード見学を行った。

(4) 研修・実習活動

【研修・実習受入】

開 催 日	内　　容	依頼団体	参 加 者
令和4年8月25日（木）～8月31日（水）6日間	博物館実習	盛岡大学2名、岩手大学大学院1名、山形県立米沢女子短期大学1名	4名
令和4年9月7日（水）	職場体験	盛岡市立下小路中学校2学年	3名

博物館実習

職場体験

(5) 出前講座・講師派遣活動

【出前講座】

開催日	内　　容	講　師	依頼団体（会場）	参加者
令和4年6月23日（木）	不来方大学院講座 「北東北縄文文化と盛岡の遺跡の関係性」	神原　雄一郎 文化財主査	盛岡市中央公民館	96名
令和4年7月13日（水）	『街 もりおか』9月号 座談会 「盛岡の古代遺跡を語る」	今野　公顕 文化財主査	文化地層研究会 （プラザおでって）	5名
令和4年8月26日（金）	学びの循環推進事業 「もりおかの遺跡」	鈴木　俊輝 文化財主事	盛岡ゆうゆう大学みたけ校（みたけ老人福祉センター）	11名
令和4年9月21日（水）	大館町遺跡見学学習	杉山　一樹 文化財主事 千葉　貴子 学芸調査員 伊藤　聡子 文化財調査員	盛岡市立大新小学校	87名
令和4年9月30日（金）	学びの循環推進事業 「もりおかの遺跡（飯岡地域の古代集落と中近世屋敷）」	津嶋　知弘 文化財副主幹	盛岡ゆうゆう大学飯岡校（飯岡農業構造改善センター）	15名
令和4年11月4日（金）	学びの循環推進事業 「かみどう散歩－秋の栗谷川城跡（安倍館遺跡）を歩く－」	津嶋　知弘 文化財副主幹	盛岡市立上堂老人福祉センター（安倍館遺跡ほか）	10名
令和4年11月22日（火） 11月24日（木）	「台太郎遺跡について」 勾玉作り体験	津嶋　知弘 文化財副主幹 千葉　貴子 学芸調査員 樋下　理沙 学芸調査員 伊藤　聡子 文化財調査員	盛岡市立向中野小学校	149名
令和4年12月1日（木）	成人教育講座歴史講座“上田界隈の昔むかし” 「太古の「上田」に思いを馳せる～黒石野：蝦夷森古墳の鉄冑の謎～」	神原　雄一郎 文化財主査	盛岡市上田公民館	30名

【講師派遣】

開催日	内　　容	講　師	依頼団体（会場）	参加者
令和4年11月4日（金）	美食王国もりおか　オータムスタディーツアー	今野　公顕 文化財主査	盛岡市農政課　食と農の連携推進室（志波城古代公園～鹿妻穴堰頭首工）	25名
令和5年2月25日（土）	もりおかの食と農バリューアップ推進事業に係る「美食王国もりおか」基盤強化等支援事業	今野　公顕 文化財主査	盛岡市農政課　食と農の連携推進室（ホテルメトロポリタン・ニューウィング）	40名

(6) 職員研修活動

【専門研修派遣】

期　　間	内　　容	派遣職員	主催 (会場)
令和 4 年 9 月 26 日（月） ～ 9 月 29 日（木）	文化財マネジメント職員養成研修（前期）	今野　公顕 文化財主査	文化庁（新潟県新潟市　新潟日報メディアシップ）
令和 5 年 1 月 26 日（木） ～ 1 月 27 日（金）	令和 4 年度文化財等取扱講習会及び文化財等防災マップ運用研修会	杉山　一樹 文化財主事	岩手県立博物館、公益財団法人岩手県文化振興事業団、岩手県博物館等連絡協議会、東北発　博物館・文化財等防災力向上プロジェクト実行委員会（岩手県立博物館）

【関連会議等出席】

期　　間	内　　容	派遣職員	主催・会場・視察先
令和 4 年 6 月　9 日（木） ～ 6 月 10 日（金）	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	菊地　幸裕 文化財副主幹	沖縄県那覇市　ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城・首里城
令和 4 年 6 月 17 日（金）	岩手県博物館等連絡協議会理事会	割船　活彦 館長	岩手県立博物館
令和 4 年 8 月 26 日（金）	岩手県博物館等連絡協議会総会・研修会	割船　活彦 館長	金ヶ崎中央生涯教育センター・金ヶ崎要害歴史館
令和 4 年 12 月 2 日（金）	令和 4 年度県内市町村埋蔵文化財担当者会議	今野　公顕 文化財主査	岩手県教育委員会　生涯学習文化財課・岩手県庁

(7) 発掘調査成果の公開及び刊行活動

【現地説明会・公開と調査成果報告会】

開催日時	遺跡名 (所在地)	見学者・参加者
令和 4 年 7 月 11 日（月） 10：00 ～ 11：30	見前中島遺跡 第 3 次発掘調査現地説明会（地元町内会向け）	12 名
令和 4 年 8 月 3 日（水） 10：00 ～ 11：00	見前中島遺跡 第 3 次発掘調査現地説明会（地元子ども会向け）	3 名
令和 4 年 10 月 29 日 (土) 10：00 ～ 15：00	史跡盛岡城跡 第 37 次・第 44 次発掘調査現地説明会	280 名
令和 5 年 3 月 5 日（日） 13：30 ～ 15：00	令和 4 年度 調査成果報告会（仁反田遺跡、安倍館遺跡、見前中島遺跡、史跡盛岡城跡）	40 名

見前中島遺跡　現地説明会

史跡盛岡城跡　現地説明会

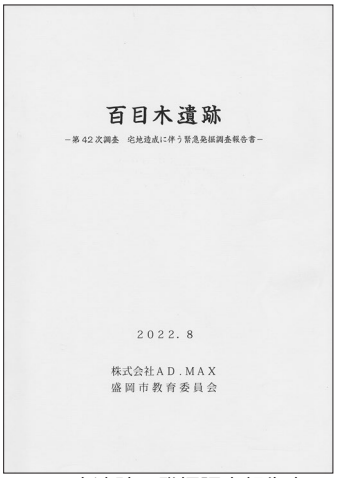
令和 4 年度調査成果報告会

【埋蔵文化財調査報告書の刊行】

件　　名	発 行 日	部　数	販売の有無
『百目木遺跡－第 42 次調査　宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－』	令和 4 年 8 月 10 日	150 部	公的機関に配布
『盛岡城跡遠曲輪跡－第 22・23 次調査　会社事務所建設・寺院建設に伴う緊急発掘調査報告書－』	令和 4 年 12 月 15 日	150 部	
『盛岡市内遺跡群－令和 2 年度発掘調査報告書－　西鹿渡遺跡第 39 次、百目木遺跡第 38 次』	令和 5 年 1 月 31 日	300 部	
『見前中島遺跡－第 3 次調査　宅地造成に伴う発掘調査報告書－』	令和 5 年 3 月 17 日	150 部	

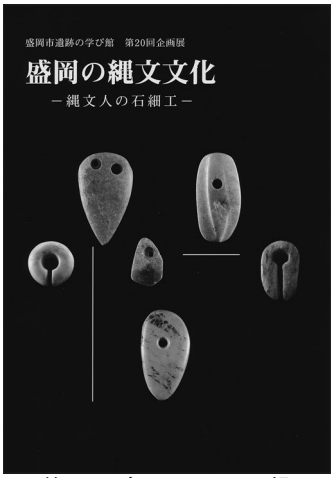
【学芸関連刊行物】

件　　名	発 行 日	部　数	販売価格等
【展示図録】 盛岡市遺跡の学び館 第 20 回企画展 「盛岡の縄文文化－縄文人の石細工－」	令和 4 年 10 月 1 日	400 部	1,000 円
【学芸レポート】 「盛岡城遠曲輪跡第 22・23 次調査出土の近現代ガラス瓶」	令和 5 年 1 月 15 日		ホームページに掲載
【パンフレット】 「下永林遺跡ガイドパンフレット」	令和 5 年 3 月 27 日	2,000 部	地元町内会に回覧 地元学校他に配布
『盛岡市遺跡の学び館　令和 3 年度館報』	令和 5 年 3 月 28 日	350 部	公的機関に配布
『盛岡市遺跡の学び館　令和 4 年度特報』	令和 5 年 3 月 30 日		無料配布



百目木遺跡　発掘調査報告書

見前中島遺跡　発掘調査報告書



第 20 回企画展　展示図録

(9) 図書整備活動

【寄贈図書及び購入図書】

形態	分野	内容	寄贈・購入冊数		計
			令和３年度末	令和４年度増加分	
発掘調査報告書			21,257	476	21,733
一般図書	考古学	概説書など	319	5	324
	歴史学	日本史・郷土史など	201	9	210
	民俗学	民具・民俗芸能など	22	0	22
	美術工芸	絵画・彫刻・建造物など	38	0	38
	自然科学	動植物など	6	0	6
	文化財保護	一般文化財・保存計画・保存処理・復元など	54	0	54
	博物館学	博物館概論・開館記念誌など	3	0	3
	その他	辞典・事典など	60	2	62
資料集		図録・解説書・パンフレット・レジュメなど	2,763	71	2,834
全集		３冊以上	480	3	483
論集		論文集など	67	4	71
通史		市町村史	293	1	294
逐次刊行物		雑誌・年報・館報・紀要・研究報告など	5,622	169	5,791
計			31,185	740	31,925

全国各地の公立及び公益法人の埋蔵文化財センター及び博物館施設等と遺跡発掘調査報告書や遺跡関係書籍及び展示図録･歴史関連書籍や論文、一般刊行物、各種パンフレットなどを主体に図書の交換を行い、保管収集に努めている。これらの蔵書は図書室の開架棚で来館者が自由に閲覧できるものと、図書資料室に収蔵のうえ、受付に申し出て閲覧できる図書に区分している。

3　埋蔵文化財発掘調査

令和４年度は、本発掘調査７件、試掘調査 14 件、合計 21 件の調査を行った。前年度より総件数は減少したが、本調査件数は同数で推移している。原因別の内訳は、史跡保存整備事業に伴う事前調査が２件、大規模区画整理事業に係る本調査１件・試掘調査１件、公共事業に係る本調査１件・試掘調査１件、個人専用住宅建築等に係る本調査２件・試掘調査４件、宅地造成に係る本調査１件・試掘調査４件、共同住宅建築等その他開発に係る試掘調査４件である。総面積は 5,421㎡で、前年度比 60.8％となっている。

調査地の地域的分布は、旧市街地区が３地点、太田・向中野地区が３地点、飯岡地区が４地点、厨川地区が５地点、中津川地区が２地点、簗川地区が１地点、乙部地区が２地点、玉山地区が１地点となっている。

本報告では、遺構及び遺物が検出された調査を主体に記述し、その他については一覧表での記載のみに留めた。

【令和４年度埋蔵文化財発掘調査（本調査・試掘調査）一覧】

区分	No	遺跡名	次数	所在地	調査原因	調査期間	調査面積（㎡）	主な検出遺構・出土遺物
本調査	1	盛岡城跡	37補	内丸 57-1 地内（三ノ丸地区）	三ノ丸石垣修復工事	５月 10 日～11 月 22 日	97	近世（宝永期以降）の石垣 近世の瓦、陶磁器類、鉄滓、古銭、動物遺存体 コンテナ約５箱
	2	盛岡城跡	44	内丸 57-1 地内（本丸地区）	史跡保存整備	８月 29 日～12 月 15 日	204	江戸～明治期の礎石、江戸期の整地層 近世の瓦、陶磁器類、鉄製品、古銭、漆喰片、炭化物、土玉 コンテナ約 17 箱
	3	見前中島遺跡	3	西見前 14 地割 70 外	宅地造成	６月　１日～８月 10 日	3,176	平安時代の竪穴建物跡１棟、溝跡５条、平安時代以降の掘立柱建物跡１棟、土坑２基、溝跡７条 平安時代の土器（須恵器、あかやき土器、土師器）、石製品、 コンテナ約２箱
	4	仁反田遺跡	7	東山二丁目 60-2	個人住宅建築	８月 22 日～９月 28 日	116	縄文時代の土坑２基、中世の堀跡１条､時期不詳の土坑２基、ピット５口 縄文土器、石器 コンテナ約１箱
	5	安倍館遺跡	98	安倍館町 181-3	個人住宅建築	10 月　６日～10 月 28 日	64	中世の堀跡１条、ピット４口 近世～近代の陶磁器片、近世の古銭
	6	下永林遺跡	11	津志田 14 地割 16-1・2、6-3、15-2 外	都南中央第三地区土地区画整理事業	11 月 14 日	72	遺構・遺物　なし
	7	手代森遺跡	7	手代森 22 地割 67-1 地先外	下水道敷設	３月 15 日～３月 31 日	110	縄文時代～弥生時代の土坑４基、焼土遺構１基 縄文時代～弥生時代の土器、石器、土製品、石製品 コンテナ約 15 箱

区分	No	遺跡名	次数	所在地	調査原因	調査期間	調査面積（㎡）	主な検出遺構・出土遺物
試掘調査	8	安倍館遺跡	96	安倍館町 3-21	共同住宅建築	4 月　5 日	40	遺構・遺物　なし
	9	落合遺跡	20	下米内一丁目 138 外	宅地造成	4 月 11 日～4 月 13 日	335	縄文時代の竪穴建物跡 2 棟、土坑 1 基、平安時代～中世の柱穴等 13 口 縄文土器、石器、平安時代の土師器片　コンテナ約 2 箱 （R5 年度 本調査）
	10	下永林遺跡	11	三本柳 10 地割 55-2・4・11	都南中央第三地区土地区画整理事業	4 月 18 日	144	遺構・遺物　なし
	11	田貝遺跡	17	上鹿妻田貝 19-2、17-7、97	個人住宅建築	5 月 11 日	34	遺構・遺物　なし
	12	大館町遺跡	87	大館町 15-20・21・40・56	個人住宅建築	5 月 18 日	12	遺構・遺物　なし
	13	盛岡城遠曲輪跡	24	肴町 304-3	個人住宅建築	5 月 20 日	37	近世の堀跡 1 条 近世の陶磁器・瓦・鉄製品 （工法変更による現状保存）
	14	安倍館遺跡	97	上堂一丁目 205-1・2	宅地造成	7 月 11 日	55	遺構　なし 縄文土器片
	15	台太郎遺跡	95	向中野二丁目 4-1・4-2 の各一部	個人住宅建築	7 月 19 日	39	遺構　なし 奈良・平安時代の土器片
	16	台太郎遺跡	96	向中野二丁目 6-5	倉庫建築	8 月 23 日	28	遺構　なし 奈良・平安時代の土器片
	17	落合遺跡	21	下米内一丁目 164-2	宅地造成	8 月 24 日	109	遺構　なし 縄文土器
	18	稲荷町遺跡	39	稲荷町 16-38	共同住宅建築	9 月 9 日	12	遺構・遺物　なし
	19	手代森遺跡	6	手代森 22 地割 17-1 の一部	保育園用地造成	11 月 7 日～11 月 8 日	187	遺構　なし 縄文土器片・石器、土師器片
	20	埋蔵文化財包蔵地外		永井字百目木 1-19 外	岩手変電所設備整備	11 月　8 日～11 月 10 日	83	遺構・遺物　なし
	21	百目木遺跡	44	三本柳 5 地割 35-2 の一部 外	宅地造成	11 月 24 日	467	古代の竪穴建物跡 7 棟、土坑・ピット 7 基、溝跡 2 条 奈良・平安時代の土器片 （R5 年度 本調査）
						総面積	5,421	

1	落合遺跡（第 20 次）	2	安倍館遺跡（第 98 次）	3	盛岡城跡（第 37 補・44 次）
4	盛岡城遠曲輪跡（第 24 次）	5	仁反田遺跡（第 7 次）	6	百目木遺跡（第 44 次）
7	見前中島遺跡（第 3 次）	8	手代森遺跡（第 7 次）		

令和 4 年度調査遺跡　位置図

○史跡整備に伴う事前調査

(1)　国指定史跡 盛岡城跡（もりおかじょうあと）　第 37 次補足・44 次調査

1　調 査 地　盛岡市内丸 57-1 地内　　2　調査原因　石垣修復・史跡整備に伴う事前調査

3　調査方法　トレンチによる内容確認調査　　4　調査期間　令和 4 年 5 月 10 日～ 12 月 15 日

5　調査面積　第 37 次補足 97㎡、第 44 次 204㎡

6　調 査 員　菊地 幸裕・今松 佑太・浜谷　佑

7　検出遺構　第 37 次補足　江戸時代の石垣・背面栗石

第 43 次　江戸～明治期の礎石、整地層

8　出土遺物　第 37 次補足　江戸時代の軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、陶磁器、鉄製品（釘等）、鉄滓、古銭、動物遺存体　コンテナ約 5 箱

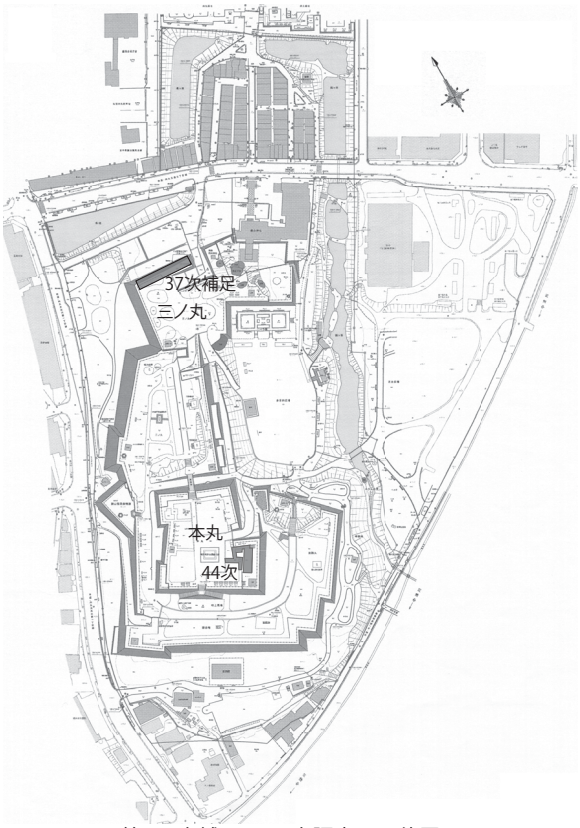
第 44 次　江戸期の軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、陶磁器、鉄製品、古銭、漆喰片、炭化物、土玉、近現代の陶磁器　コンテナ約 17 箱

9　調査概要　史跡盛岡城跡は、市街地中心部の内丸に所在する盛岡藩南部氏の居城跡である。

当市では、「史跡盛岡城跡整備基本計画」に基づき、石垣の解体修理をはじめとする保存整備計画を計画し、これに係る事前調査を平成 25 年度から実施している。第 37 次補足調査は三ノ丸北西部北面石垣修復工事に伴う調査を、第 44 次調査は本丸地区南東部を調査した。

三ノ丸地区においては、石垣背面及び根石を調査した。根石背面には、円礫の栗石を密に充填するのではなく、栗石と真砂土の混合土を充填する構造が判明した。

本丸地区の南東部においては、礎石群 2 箇所を確認した。このうち、北東に位置する礎石群は 9 石からなる。ほとんどが角柱状の形状を呈し、小型の矢穴が認められた。江戸～明治期に帰属すると考えられるが、該期の絵図や設計図には記されておらず、詳細は今後の調査課題である。また、特徴的な遺物として、「延宝九季四月」と刻書された瓦片が旧表土中から出土した。



第 37 次補足・44 次調査区　位置図

第 37 次補足調査　根石検出状況

第 44 次調査　礎石群

○公共事業関連

(1) 手代森遺跡　第７次調査

1　調 査 地　盛岡市手代森 22 地割 67-1 地先 外　2　調査原因　公共下水道敷設工事

3　調査方法　調査対象区域全面の本調査　4　調査期間　令和５年３月 15 日～３月 31 日

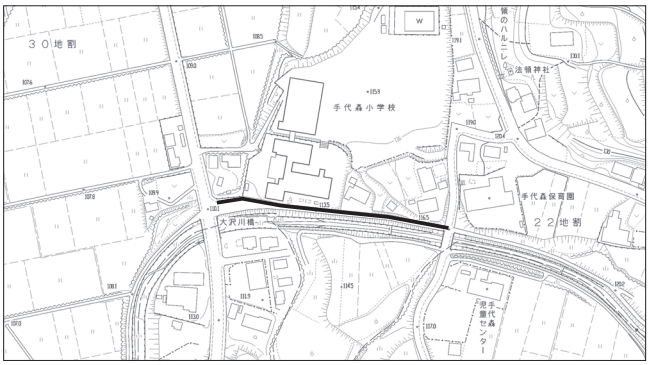
5　調査面積　110㎡　6　調 査 員　鈴木 俊輝・杉山 一樹・佐々木 あゆみ

7　検出遺構　縄文時代晩期～弥生時代前期の土坑４基、ピット９口、焼土遺構１基

　出土遺物　縄文時代晩期～弥生時代前期の土器、石器、土製品、石製品　　コンテナ約 15 箱

9　調査概要　本遺跡は、重要文化財「遮光器土偶」が出土したことで著名で、これまでの調査で、縄文時代晩期～弥生時代前期の遺構・遺物が確認されている。

　今次調査は、下水道工事に伴う調査であったため、調査区幅約１ｍと狭幅であったが、縄文晩期～弥生前期の土坑をはじめとする遺構と、該期の遺物が多量に出土した。



第７次調査区　位置図（1：5,000）

第７次調査　焼土遺構

○個人住宅建築関連

(1) 仁反田遺跡　第７次調査

1　調 査 地　盛岡市東山二丁目 60-2　2　調査原因　個人住宅建築

3　調査方法　住宅・駐車場建築範囲全面の本調査　4　調査期間　令和４年８月 22 日～９月 28 日

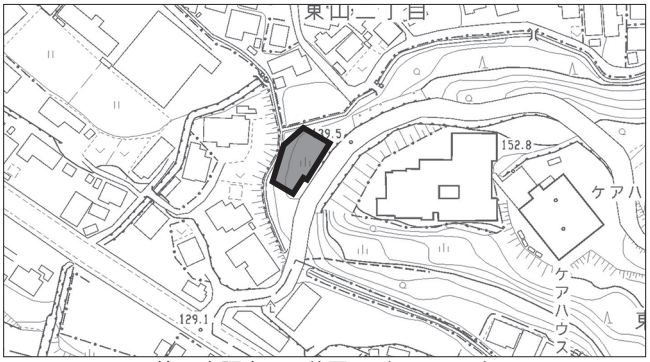
5　調査面積　116㎡　6　調 査 員　鈴木 俊輝・杉山 一樹

7　検出遺構　縄文時代の土坑２基、中世の堀跡１条、時期不詳の土坑２基、ピット５口

8　出土遺物　縄文土器、石器　　コンテナ約１箱

9　調査概要　本遺跡は、簗川北岸の建石山山地西端部の丘陵上に立地する。これまでの調査で、縄文時代中期～後期の遺構・遺物と、室町～戦国期の「仁反田館」に関連する遺構・遺物が確認されている。

　今次調査では、縄文時代の土坑（フラスコ形土坑）、中世の堀跡等の遺構を検出した。仁反田館は、４つの曲輪とそれを囲む堀で構成されているが、本調査で検出された堀跡は、城館西端部を巡る堀に該当すると考えられる。



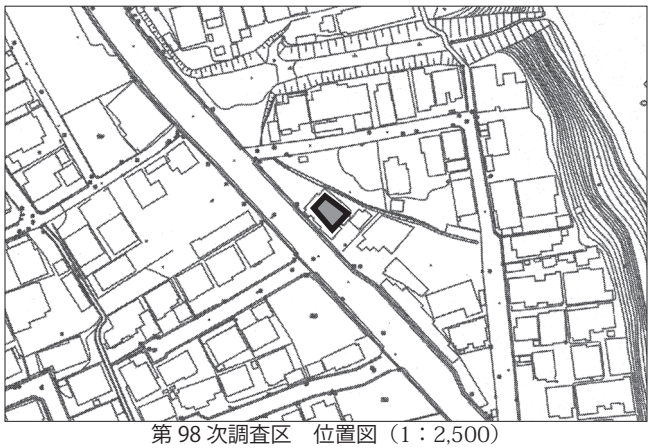
第７次調査区　位置図（1：2,500）

第７次調査　全景

(2)　安倍館遺跡　第 98 次調査

1　調 査 地　盛岡市安倍館町 181-3
2　調査原因　個人住宅建築
3　調査方法　住宅建築範囲全面の本調査
4　調査期間　令和 4 年 10 月 6 日～ 10 月 28 日
5　調査面積　64㎡
6　調 査 員　鈴木 俊輝・杉山 一樹
7　検出遺構　中世の堀跡 1 条、ピット 4 口
8　出土遺物　近世～近代の陶磁器片、近世の古銭
9　調査概要　本遺跡は、雫石川北岸の段丘上に立地している。中世工藤氏の城館跡とされ、これまでの調査で、中世から戦国期の堀跡、掘立柱建物跡、竪穴建物等の遺構が多数確認されている。

今次調査は、南館西端部に位置し、曲輪を巡る堀跡 1 条を検出した。また、堀跡壁面からピットが確認された。堀に設けられた防御設備「乱杭」である可能性が考えられる。


第 98 次調査区　位置図（1：2,500）

第 98 次調査　全景

(3)　盛岡城遠曲輪跡　第 24 次調査

1　調 査 地　盛岡市肴町 304-3
2　調査原因　個人住宅建築
3　調査方法　トレンチによる遺構確認調査
4　調査期間　令和 4 年 5 月 20 日
5　調査面積　37㎡
6　調 査 員　今野 公顕・杉山 一樹
7　検出遺構　近世の堀跡 1 条
8　出土遺物　近世の陶磁器、瓦、鉄製品（釘）
9　調査概要　盛岡城は、御城内と呼ばれた内曲輪を中心に、外側を堀と土塁で区画された外曲輪が囲み、さらに外側を遠曲輪が囲む梯郭式の城郭である。今次調査区は、遠曲輪南辺と南東辺の屈曲部付近に位置する。調査の結果、幅 15 m以上を測る堀跡が確認された。（工法変更による現状保存措置）

第 24 次調査区　位置図（1：2,500）

第 24 次調査　トレンチ全景

○民間開発関連

(1)　見前中島遺跡　第 3 次調査

1　調 査 地　盛岡市西見前 14 地割 70 外　　2　調査原因　宅地造成

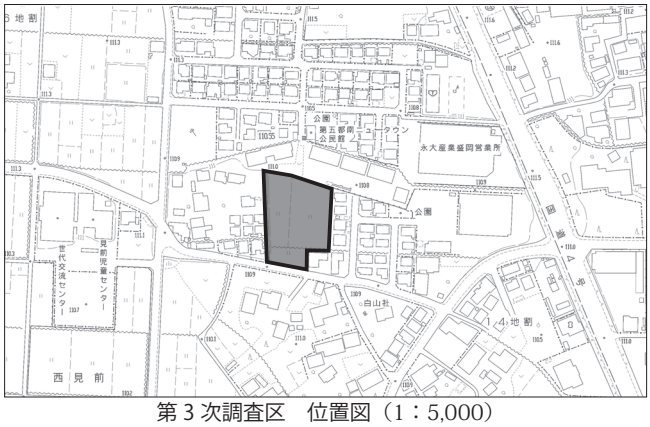
3　調査方法　調査対象区域全面の本調査　　4　調査期間　令和 4 年 6 月 1 日～ 8 月 10 日

5　調査面積　3,176㎡　　6　調 査 員　今野 公顕・杉山 一樹・佐々木 あゆみ

7　検出遺構　平安時代の竪穴建物跡 1 棟、溝跡 5 条、平安時代以降の掘立柱建物跡 1 棟、土坑 2 基、溝跡 7 条、時期不明の風倒木痕 1 箇所

8　出土遺物　平安時代の須恵器・あかやき土器・土師器、石製品（砥石）、中世以降の陶磁器片　コンテナ約 2 箱

9　調査概要　本遺跡は、北上川西岸の低位段丘上に立地する。今次調査では、平安時代の竪穴建物跡、溝跡等の遺構と遺物を検出した。なお、本調査については別途報告済（『見前中島遺跡－第 3 次調査　宅地造成に伴う発掘調査報告書－』2023 年 3 月）である。



第 3 次調査区　位置図（1：5,000）

第 3 次調査　竪穴建物跡

(2)　落合遺跡　第 20 次調査

1　調 査 地　盛岡市下米内一丁目 138 外　　2　調査原因　宅地造成

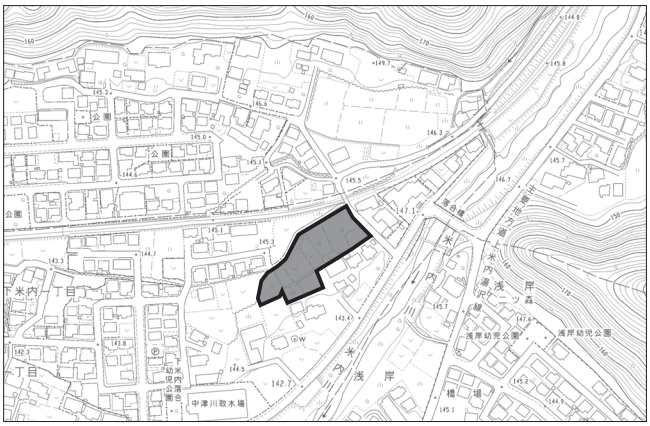
3　調査方法　トレンチによる遺構確認調査　　4　調査期間　令和 4 年 4 月 11 日～ 4 月 13 日

5　調査面積　335㎡　　6　調 査 員　神原雄一郎・今松佑太・佐々木あゆみ

7　検出遺構　縄文時代中期の竪穴建物跡 2 棟、土坑 1 基、平安時代～中世の柱穴等 13 口

8　出土遺物　縄文時代中期～晩期の土器・石器、平安時代の土師器　　コンテナ約 2 箱

9　調査概要　本遺跡は、中津川と米内川の合流点付近の低位段丘上に立地する。今次調査では、縄文中期の竪穴建物跡や遺物包含層を確認した。（令和 5 年度本調査実施）



第 20 次調査区　位置図（1：5,000）

第 20 次調査　調査状況

(5)　百目木（どめき）遺跡　第 44 次調査

1　調 査 地　盛岡市三本柳 5 地割 35-2 の一部 外 2　調査原因　宅地造成

3　調査方法　トレンチによる遺構確認調査　4　調査期間　令和 4 年 11 月 24 日

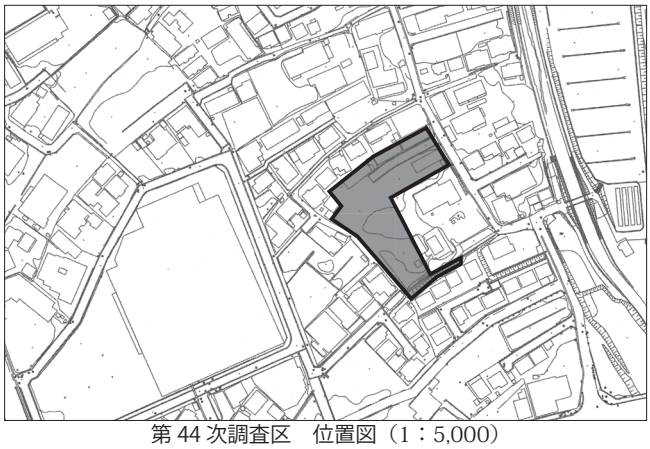
5　調査面積　467㎡　6　調 査 員　今野 公顕・杉山 一樹・佐々木 あゆみ

7　検出遺構　奈良・平安時代の竪穴建物跡 7 棟、土坑・ピット 7 基、溝跡 2 条

8　出土遺物　奈良・平安時代の土器

9　調査概要　本遺跡は、北上川西岸の低位段丘上に立地し、これまでの調査で奈良・平安時代の竪穴建物跡が 100 棟以上確認されている大規模集落跡である。

今次調査の結果、奈良･平安時代の竪穴建物跡をはじめとする遺構と、当該期の遺物を検出した。（令和 5 年度本調査実施）



第 44 次調査区　位置図（1：5,000）

第 44 次調査　トレンチ全景

4　盛岡市日戸遺跡出土の大型磨製石斧

神原　雄一郎[1]・飯塚　義之[2]・小野　章太郎[3]・樋下　理沙[1]

1　はじめに

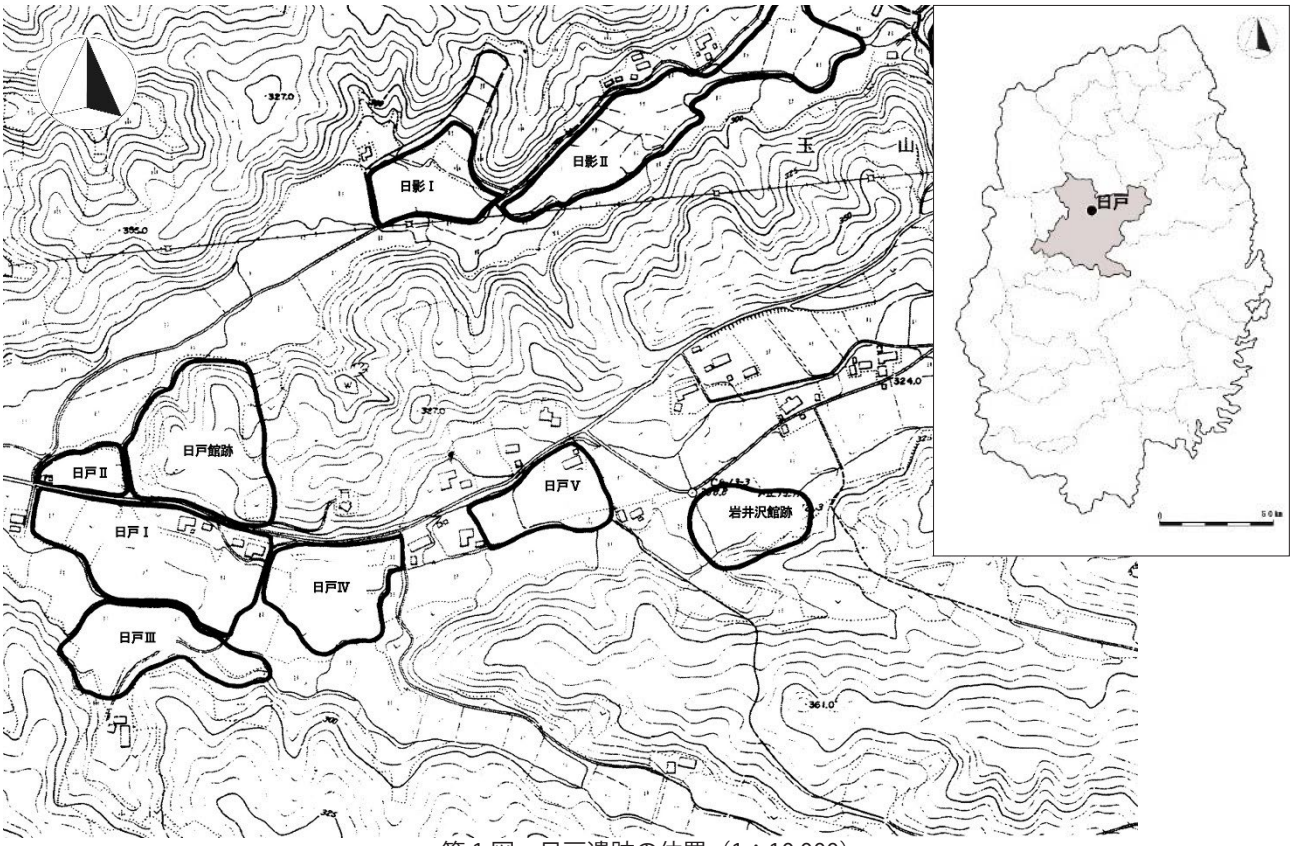
紹介するのは、盛岡市（旧玉山村）日戸遺跡出土と伝えられる擦切技法による大型磨製石斧である。この大型磨製石斧が発見された経緯や年月日、採集・寄贈者は不明で、玉山村歴史民俗資料館で永らく展示・保管されてきた。長さが 47.1cm もあり、重さが 3kgを超える日戸の磨製石斧であるが、これまで大型磨製石斧の類例として紹介されてきたものの、単独での詳細な資料報告は行われていなかったため、今回、遺跡の学び館館報の紙面上で資料紹介するものである。

さて、この「大型磨製石斧」であるが、以前より北海道南部から東北地方にかけて発見される特異な磨製石斧として注目されていた。東京国立博物館に所蔵されている北海道内出土の「擦切磨製石斧未成品」は、研磨された板状石材に 3 本の溝を彫り込むもので、切り離せば 50cm 前後の石斧が 4 本作出されていたものである。また、函館市谷地頭出土とされる「ブラキストンの大型磨製石斧」は、長さ 39.5cm を測る大きさで、前述した「擦切磨製石斧未成品」と共に北海道における「大型磨製石斧」として有名である。注目されるのは両資料共に「（北海道日高地方の）平取町産アオトラ石」製といわれており、特に大型磨製石斧未成品の存在は、石材採取（日高　平取）→製品加工の工程を北海道島で遂行させていた実例として重要である。秋田県上掃遺跡では昭和 40 年に 60cm にも及ぶ擦切磨製石斧を筆頭に 4 点の大型擦切磨製石斧が一括した状態で発見されている。上掃遺跡例は製品個々の大きさや出土状況から、非実用的な祭祀を思わせ、大型磨製石斧が特別な製品であることを印象付けた。これらの大型磨製石斧を佐藤嘉広は「斧という道具以上の意味が付す」と表現し、佐原真は「祭りの斧」と称した。このように注目され、紹介されてきた「大型磨製石斧」であるが、近年は石材産地や製作方法も注目されるようになり、縄文時代の物流や生活を知る上で重要な資料とされている。本資料も同様の目的で製作された製品と思われるが、前述したように出土状況等が不明なため、今回は図示と資料の概要紹介に留めたい。

2　日戸遺跡の概要

日戸遺跡は盛岡市北部、日戸字古屋敷・一本杉に所在する大規模な縄文時代の集落遺跡で、過去においては日戸遺跡と総称されていたが、現在では地形分類によって日戸Ⅰ～Ⅴ遺跡に細分されている。また、日戸地区では日戸Ⅰ～Ⅴ遺跡以外にも鷹高遺跡、玉山中学校裏遺跡、市ノ坪Ⅰ・Ⅱ遺跡、日影Ⅰ・Ⅱ遺跡、間洞Ⅰ・Ⅱ遺跡、弓打沢Ⅰ～Ⅲ遺跡、日戸館遺跡が所在し、全ての遺跡から縄文時代の遺物が確認されている。この中で発掘調査が実施されているのは日戸Ⅰ・Ⅱ遺跡で、日戸Ⅰ遺跡は昭和 30（1955）・31（1956）年の 2 箇年にわたり岩手大学による発掘調査が実施され、縄文時代早期から後期にかけての遺物が多量に出土した。報告されているのは早期中葉の貝殻文土器や前期末葉から中期初頭にかけての円筒下層ｄ式、中期中葉の大木８ａ～９式、後期前葉の十腰内Ⅰ・Ⅱ式に類似する土器である。特に、下層から出土した早期の貝殻文土器群は昭和 30 年代当時、岩手県では初見の土器であり、中期の遺物が出土する層より下位から早期の遺物が層位的に出土するなど注目を集めた。日戸Ⅱ遺跡は旧玉山村教育委員会により緊急発掘調査が平成 17（2005）年に実施され、中期中葉の大木８ａ式期の土器が伴う竪穴建物跡が 1 棟確認されている。

1　盛岡市遺跡の学び館・2　中央研究院　地球科学研究所（台北）・3　東北歴史博物館



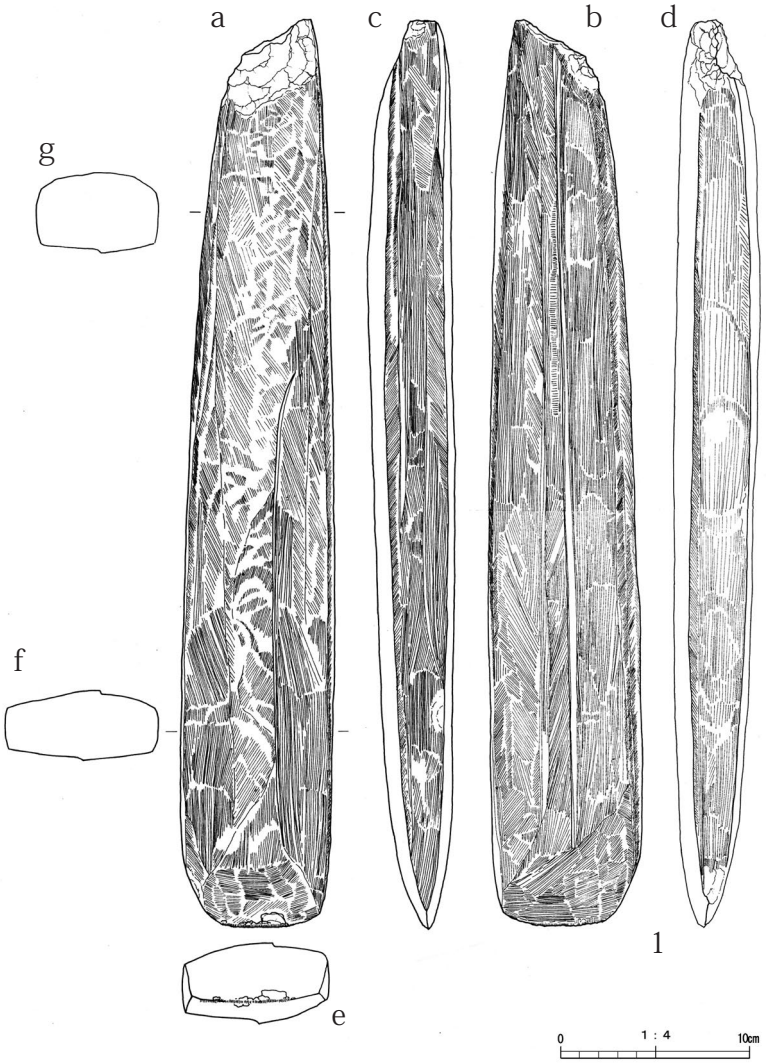
第１図　日戸遺跡の位置（1：10,000）

３　大型磨製石斧の概要

第２図１の大型磨製石斧は最大長 47.1cm･最大幅 8.1cm･最大厚 4.2cm、重量 3.11kg･比重 2.96 をはかり、ａ面・ｂ面の表裏に擦切痕が残る。平面形は基部幅（5.2cm）、刃部幅（6.3cm）と刃部がやや幅広い短冊状を呈し、最大幅は長軸中央より刃部に寄った部分（8.1cm）にある。側縁ｃには擦切痕が観察され、面的に平坦な仕上がりである。一方、側縁ｄには剥離整形痕と思われる浅い凹凸があり、凹凸部にも丁寧な研磨が施され、細かい線状研磨痕が残される。面的には左側面に比べ丸みを帯びた形状である。このことから、本資料は母岩を大きく板状に擦切り分割し、板状に作出された石材を更に意図する形状に分割したことが窺える。

東京国立博物館所蔵の「擦切磨製石斧未成品」を参考とすると、本資料は板状石材の右側辺部を製品化したものと推察される。基部に剥離痕が残されるが、これは板状石材段階の箇所が残存し、切り離し後に粗い部分を剥離調整したものと思われる。剥離面縁辺は研磨され端部のみ剥離した状態を残す。背面・腹面の主体部分は全面に丁寧な研磨が施され、擦切の際に生じた段差まで細かく研磨される。研磨部は部分的に長さ 7cm 程の線状研磨痕が観察されるが、多くは 4cm 以下の短い研磨痕である。おそらくは手持ちによる砥石など研磨工具を用いた作業が推察される。刃部は所謂「偏刃」の形状を呈し、刃部には僅かに微細な剥離痕と直行する条線が見られるが、使用による傷跡なのか調整の際に生じた研磨痕なのか判別できない。しかし、刃部付近の曲面には摩耗していない調整痕と思われる横位・斜位の線状研磨痕が顕著に見られることから、使用頻度が少ない製品であったことが覗える。

ａ面長軸上に金属による傷が残されている。これは耕作の際についたものと思われるが、ｂ面やｃ・ｄ側縁には見られないことから、大型磨製石斧は背面を上に横位の状態で地中に存在していたことが推察される。



第２図　日戸遺跡出土大型磨製石斧

４　石材分析

（１）*p*-XRF を用いた「その場」非破壊化学分析法

日戸遺跡出土大型磨製石斧を分析するにあたり、遺物を損傷させることのない完全非破壊（non-invasive）化学分析技術であるポータブル蛍光Ｘ線分析装置（以下 *p*-XRF）を用いた。分析にはオックスフォード・インストゥルメンツ（Oxford Instruments）社製の X-MET7500 を使用し、遺跡の学び館内で「その場（in-situ）」分析を行った。分析対象は大気雰囲気下のまま分析用の試料台に置き、下方からのＸ線照射を行った。Ｘ線管球（Ph ターゲット）から照射されるＸ線ビームを軽元素分析域では加速電圧 13 ㎸で４秒間、重元素分析域では加速電圧 40 ㎸で１秒間を１セットとして、それを 12 回繰り返した計 60 秒間の照射を行った。Ｘ線ビームの照射径は 9mm で、試料表面から励起されたＸ線は搭載されたシリコンドリフト EDS 検出器（SDD-EDS）によって測定される。

測定値は岩石・鉱物分析に対応した軽元素を含む鉱石分析用パラメータ（Mining LE-FP）法を用い、酸化物の重量パーセント（wt.％）として計算させ分析値とした。分析値の 100％換算は行っていない。表裏１箇所ずつ、２点の分析を行った。

（２）「原石」の鉱物化学分析

緑色縞状構造が特徴的な石斧の原石（源岩）とされている北海道日高地方、平取（びらとり）町額平川（ぬかびらがわ）産のアオトラ石と、層状構造を呈し見かけがアオトラ石に似ている岩手県久慈産の緑色の岩石について、それぞれ現地より天然岩石試料を入手し化学分析を行った。原石は、台北・中央研究院地球科学研究所において、数センチ大に切り出し、エポキシ樹脂に包埋後、研磨を施し分析用の試料とした。分析には上述の *p*-XRF と電子線プローブマイクロアナライザー（以下 EPMA）を用いた。分析の詳細は、飯塚（2021）、飯塚（2012）などを参照されたい。

5　石材の化学組成

本資料、日戸出土大型磨製石斧の観察と分析を通して、縞模様を持つ石材を用いた磨製石斧について検討する。本資料は、特徴的な青緑色の縞模様を持つ緑色の変成岩、所謂「アオトラ石」製とされている。「アオトラ石」は北海道平取町額平川流域に産地を持つ石材とされている。これまでの一般的な石材鑑定は縞の有無や比重の確認、実体顕微鏡などによる経験的な手法であるため、常に主観的曖昧さが伴ってきた。今回は EPMA を用いた層構造の観察と鉱物化学分析結果と、*p*-XRF 法による遺物の非破壊化学分析との比較を行うことで、石材の同定を行った。「アオトラ石」の緑色濃淡の異なる層ごとの鉱物組み合わせ（存在する鉱物の確認）と、それぞれの化学組成範囲を確認した。また、岩手県久慈産の縞模様のある緑色岩（肉眼的にアオトラ石と近似する岩石）の比較分析も行い、所謂「アオトラ石」について、より確からしい判別法の提案を試みる。

Site	**Hinoto**		**Aotora rock (Nature)**			
Sample #	b 475					
type	BIG AX			Act dominant	Epi dominant	
color	light green	deep green	N=16	light green	deep green	minerals
wt.%	side-1	side-2	**mean**	max	min	
SiO2	58.42	54.75	52.87	57.80	46.39	Ab, Act, Epi
TiO2	0.32	0.95	1.03	2.26	0.66	Tit
Al2O3	8.58	11.12	12.97	16.05	8.28	Ab, chl
Cr2O3	0.05	0.17	0.14	0.32	0.07	
FeO	8.32	14.65	11.67	15.62	8.27	Epi, Act, chl
MnO	0.13	0.19	0.21	0.37	0.13	
MgO	11.32	0.00	8.61	14.23	0.00	Act
NiO	0.04	0.07	0.07	0.37	0.03	
CuO	0.01	0.07	0.01	0.02	0.01	
ZnO	0.01		0.01	0.01	0.01	
CaO	7.03	12.36	7.75	11.05	6.11	Epi, Act
Na2O						
K2O	0.96	1.31				
P2O5	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	
SO3	0.47	0.60	0.12	0.21	0.00	
Total	95.83	96.24	95.46	95.79	95.25	

淡緑色帯と濃緑色帯の二層構造はそれぞれ緑閃石(Act)、緑簾石(Epi)が主体をなしている。副次鉱物として、チタン石(Tit)、曹長石（Ab)、緑泥石（chl)、石英が含まれる。Minerals(鉱物名)は主要構成鉱物を示す。

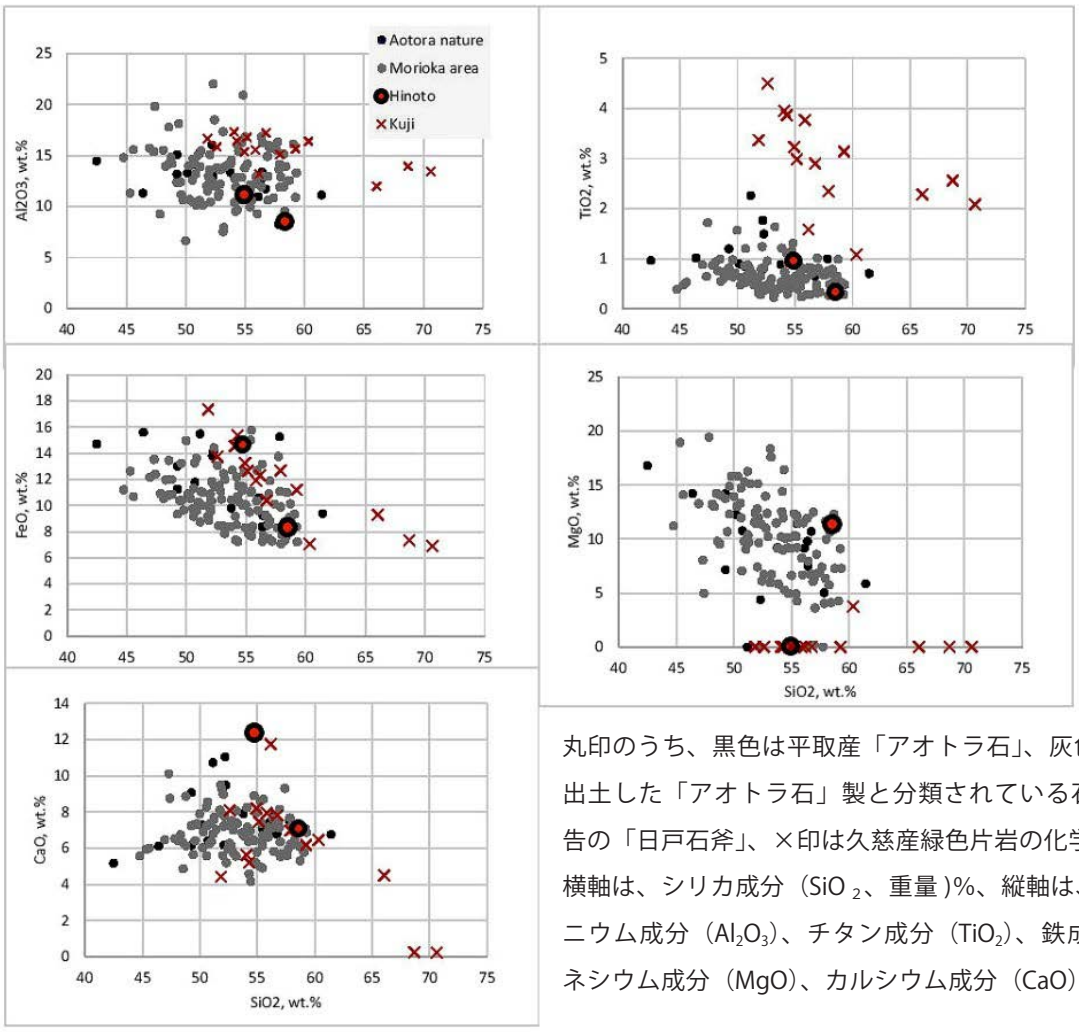
第 1 表　日戸遺跡（石斧）とアオトラ石（原石）の化学組成：*p*-XRF 分析法による成分比較

（1）アオトラ石を構成する鉱物と全岩化学組成

第 1 表に、*p*-XRF 分析による日戸遺跡（石斧）とアオトラ石（原石）の化学組成の成分比較を示す。アオトラ石は名前の由来のとおり、青緑色の縞模様が特徴的で、それぞれ濃緑色が緑簾石、淡緑色が緑閃石を主体となす変成岩である。これは先行研究報告（Maekawa et al.2020）とも調和的である。このアオトラ石は、縞模様の箇所により成分のばらつきがあり、SiO_2：50 ～ 60wt.%、Al_2O_3：9 ～ 18wt.%、FeO：6 ～ 13wt.%、MgO：5 ～ 16wt.%、CaO：4 ～ 12wt.%の組成範囲幅が報告されている。（飯塚・小野 2020）。

アオトラ石の場合、その化学組成幅は、主として緑閃石と緑簾石の占有率の違いを反映している。第 1 表に示したように、マグネシウム成分を含まない緑簾石が主たる構成鉱物の濃緑色帯部と、Mg に富む緑閃石が主たる構成鉱物となっている淡緑色帯部とでは、全岩組成のマグネシウム成分に大きな差異が認められる。全岩（バルク）の化学組成は、構成する鉱物の化学組成とそれら鉱物の占める割合（占有率）によって決まるため、同一の分析対象でも複数ポイントの分析を行い、化学組成のばらつきを確認することが重要であるといえる。アオトラ石には K_2O はほとんど検出されないか、含まれている場合も 2wt.%を上まわることはない。肉眼観察で混同されがちな緑色凝灰岩（グリーンタフ）は、それ以上のカリウム成分を含むこと、またマグネシウムをほとんど含まないことで区別される。第 3 図に、平取産「アオトラ石（黒

色丸印)」、盛岡地域で出土した「アオトラ石」製と分類されている石斧（灰色丸印)、と本報告の「日戸石斧」(○枠印）を示した。これら３者は、鉱物組み合わせの違い、すなわち、緑閃石と緑簾石の占有率の違いによる化学組成のばらつきの範囲内でほぼ同質するに矛盾がないといえる。



丸印のうち、黒色は平取産「アオトラ石」、灰色は、盛岡地域で出土した「アオトラ石」製と分類されている石斧、○枠は本報告の「日戸石斧」、×印は久慈産緑色片岩の化学組成を表す。
横軸は、シリカ成分（SiO_2、重量)%、縦軸は、それぞれアルミニウム成分（Al_2O_3)、チタン成分（TiO_2)、鉄成分（FeO)、マグネシウム成分（MgO)、カルシウム成分（CaO）を示す。

第３図　アオトラ石・久慈・日戸遺跡の石材化学組成：*p*-XRF 分析法による成分比較

（２）アオトラ石と「久慈」産の緑色片岩の比較

化学分析結果を用いて、アオトラ石と久慈産緑色岩との比較も試みた（第３図)。アルミニウム成分、鉄成分、カルシウム成分においては、アオトラ石と久慈産緑色岩との差異は認められない。一方で、チタン成分には明瞭な差異が認められる。久慈市産緑色岩はアオトラ石と同じく、青緑色の縞模様が特徴的で、緑簾石・緑閃石を含む変成岩（片岩）である。比重も 2.9 前後とほぼ同じである。僅かに差異が感じられるのは、個体によっては粗粒の緑簾石・緑閃石が含まれる点である。しかし肉眼鑑定では明らかに区別が難しい。アオトラ石と久慈産緑色片岩であるが、第３図のように化学分析では TiO_2（チタン成分）含有量に明瞭な違いが見られる。第１表に示したように「アオトラ石」のチタン成分は「チタン石（titanite)、くさび石（sphene)：$CaTiSiO_5$」に由来し、かつ全岩（バルク）での含有量はおおむね 2wt.％以下である。ほとんどの分析値は 0.5 ～ 1wt.％に集中する。「久慈」産緑色片岩は、「チタン鉄鉱（イルメナイト、ilmenite：$FeTiO_3$)」を含み、バルクのチタン成分は 2wt.％以上とアオトラ石よりも多く、分析した資料のほとんどのチタン成分は 4wt.％に集中する。久慈産緑色片岩のチタン成分はこの鉱物に由来している

ものと考えられる。また、チタン石とイルメナイトは岩石の変成作用の過程で生成され、ごく限定的な条件以外に両者が共存することはほとんどない。事実、イルメナイトはアオトラ石には含まれていない。岩石学的に、アオトラ石は、「チタン石含有緑閃石緑簾石片岩」、一方で、久慈産の緑色片岩は、「イルメナイト（チタン鉄鉱）含有緑閃石緑簾石片岩」と定義できる。このことによって、*p*-XRF による簡易的な化学分析においても、チタン成分の含有量の違いから「平取産」と「久慈産」は判別できるものと考える。

6　日戸遺跡出土大型磨製石斧の石材来源

硬く、重く（比重 2.8 ～ 3.2）、かつ靭性があるアオトラ石は磨製石斧の石材として珍重されていたようである。また、粒子が細かく、研磨すると美しい金属的な光沢を放つことも魅力であったのだろう。

チタンの含有量で見た場合、日戸大型磨製石斧に含まれるチタン量は 1wt.％以下と低く、同じく 2wt.％以下にピークを持つアオトラ石の組成範囲に調和的である。2wt.％以上の久慈産緑色岩のチタン量とは大きく離れることが明らかである。チタン量を主眼に全体の成分を見た場合、「平取」の組成と大きく矛盾しないことが確認された。現時点で､他に同質の岩石（石材）の産地が確認されていないことから、本報告の大型磨製石斧の石材の来源は「平取産」の可能性があるといえる。

7　おわりに

今回の化学分析結果により、日戸遺跡出土大型磨製石斧の石材来源が「平取産」のアオトラ石である可能性が高まった。一方で、縞模様を持つ岩石（石材）が北部北上山地にも存在し、見た目による石材判別が困難であることを提起することが出来たのは重要な成果である。久慈産緑色片岩以外にも近似する緑色岩が確認されており、今後も化学分析を利用した石器の石材流通について検証を重ねるつもりである。今回紹介した日戸遺跡出土大型磨製石斧が、所謂「アオトラ石」の流通、縄文時代における分業の役割を考える一助になれば幸いである。

引用・参考文献

草間俊一（1956）「岩手県日戸遺跡調査報告」岩手大学学芸学部研究年報第 10 巻 1-17 頁

草間俊一（1959）「岩手県日戸遺跡調査報告（第 2 報）」岩手大学学芸学部研究年報第 14 巻 13-25 頁

岩手県立博物館（1993）「じょうもん発信」94-99 頁

佐原真（1994）「斧の文化史」考古学選書 (6)　東京大学出版会

玉山村教育委員会（2002）「玉山村内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ」岩手県岩手郡玉山村文化財調査報告書第 20 集

菊地幸裕（2007）「日戸Ⅱ遺跡第 1 次調査」盛岡市遺跡の学び館平成 17 年度館報 24-29 頁

飯塚義之（2012）考古鉱物学：低真空走査型電子顕微鏡（LV-SEM）による玉器の分析とその成果，日本電子ニュース　44：23-39．https://researchmap.jp/yiizukaies/published_papers/2512917

飯塚義之・小野章太郎（2020）「完全非破壊化学分析による宮城県地域の縄文時代磨製石斧および石製装身具の石材研究」『宮城考古学』22：137-156　https://researchmap.jp/yiizukaies/published_papers/29985044

Maekawa，H.，K. Ohtsuka，K. Yamamoto，N. Gouchi，K. Hattori（2020）Petrology of green polished stone axes of the Jomon period from the Sannai-Maruyama site，Japan，investigating the origin of source rock. Island Arc:30 e12384 https://doi.org/10.1111/iar.12384

飯塚義之（2022）「化学分析はじめてガイドーサンプリングから解釈まで」（渋谷綾子・横田あゆみ編）（科学研究費助成事業学術変革領域研究 (A)「中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ」計画研究 A02「考古遺物の材料分析と産地推定」），pp.31.　https://researchmap.jp/iizukaies/published_papers/39782220

報告書抄録

ふりがな	もりおかしいせきのまなびかん　れいわよねんど　かんぽう
書名	盛岡市遺跡の学び館　令和４年度 館報
編集者名	大森　勉・菊地 幸裕・津嶋 知弘・神原 雄一郎・今野 公顕・鈴木 俊輝・今松 佑太・杉山 一樹・田老 茜理
編集機関	盛岡市遺跡の学び館
所在地	〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1　　電話　019-635-6600
発行年月日	2024 年３月 25 日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
盛岡城跡（第 37 補・44 次）	岩手県盛岡市内丸 57-1 地内	03201	LE16-0355	39° 42′ 01″	141° 09′ 00″	20220510 ～ 1215	301	保存整備事業に伴う事前調査
手代森遺跡（第７次）	岩手県盛岡市手代森 22 地割 67-1 外		LE37-1236	39° 38′ 24″	141° 11′ 15″	20230315 ～ 0331	110	公共下水道敷設工事
仁反田遺跡（第７次）	岩手県盛岡市東山二丁目 60-2		LE17-1281	39° 41′ 19″	141° 10′ 50″	20220822 ～ 0928	116	個人住宅建築
安倍館遺跡（第 98 次）	岩手県盛岡市安倍館町 181-3		LE06-1123	39° 43′ 14″	141° 07′ 32″	20221006 ～ 1028	64	個人住宅建築
盛岡城遠曲輪跡（第 24 次）	岩手県盛岡市肴町 304-3		LE06-2389	39° 42′ 14″	141° 09′ 08″	20220520	37	個人住宅建築
見前中島遺跡（第３次）	岩手県盛岡市西見前 14 地割 70 外		LE37-0098	39° 38′ 29″	141° 09′ 57″	20220601 ～ 0810	3,176	宅地造成
落合遺跡（第 20 次）	岩手県盛岡市下米内一丁目 138 外		LE07-1260	39° 43′ 01″	141° 10′ 39″	20220411 ～ 0413	335	宅地造成
百目木遺跡（第 44 次）	岩手県盛岡市三本柳５地割 35-2 の一部 外		LE27-1096	39° 39′ 37″	141° 09′ 46″	20221124	467	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
盛岡城跡（第 37 補・44 次）	城館跡	近世	三ノ丸石垣・根石 本丸礎石群・整地層	瓦、陶磁器、鉄製品、鉄滓、古銭、動物遺存体　コンテナ約 22 箱	三ノ丸石垣根石を確認 本丸南東部で礎石群を確認
手代森遺跡（第７次）	散布地 集落跡	縄文～弥生	土坑４基、焼土遺構１基	縄文晩期～弥生前期の土器、石器、土製品　コンテナ約 15 箱	
仁反田遺跡（第７次）	集落跡 城館跡	縄文 中世	土坑２基 堀跡１条	縄文土器、石器　コンテナ約１箱	中世「仁反田館」の堀跡を確認
安倍館遺跡（第 98 次）	散布地 城館跡	中世	堀跡１条	近世～近代陶磁器・近世古銭	堀の防御設備「乱杭」跡を確認
盛岡城遠曲輪跡（第 24 次）	城館跡	近世	堀跡１条	陶磁器、瓦、鉄製品	
見前中島遺跡（第３次）	散布地	平安	竪穴建物跡１棟、溝跡 12 条、掘立柱建物跡１棟、土坑２基	須恵器・あかやき土器・土師器、石製品　コンテナ約２箱	道路側溝と考えられる溝跡を確認
落合遺跡（第 20 次）	集落跡 城館跡	縄文	竪穴建物跡２棟、土坑１基	縄文土器・石器、土師器　コンテナ約２箱	
百目木遺跡（第 44 次）	集落跡	奈良・平安	竪穴建物跡７棟、土坑７基、溝跡２条	奈良・平安時代の土器	

盛岡市遺跡の学び館　令和４年度 館報

令和６年３月25日　発行

発行　盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地１
電話　019-635-6600　FAX　019-635-6605
e-mail　iseki@city.morioka.iwate.jp
URL　https://www.city.morioka.iwate.jp/kankou/kankou/1037106/rekishi/1009437/1009438.html

印刷　小松総合印刷株式会社
〒020-0827　岩手県盛岡市鉈屋町15番地４
電話　019-624-1374　FAX　019-623-6719